

本日、ここに、鹿島市議会令和8年6月定例会を招集し、諸案件についてご審議をお願いするものですが、議案の提案に先立ちまして、2期目の市政運営に望む所信の一端と今後の主要な施策について申し上げます。

【はじめに】

去る4月の選挙におきまして、市民の皆さまから温かいご支持とご信託を賜り、引き続き市政の重責を担わせていただくこととなりました。1期目の4年間、私は「市民に寄り添う行政」と「連携」を市政の核として歩んできました。

社会情勢が大きく変化し、市民ニーズが多様化する現在、市民の声を絶えずお聞きすることは、市政運営において重要な指針となります。私はこれまで、まちづくりのパートナーである市民の皆さまとの「対話」を最優先し、「市長と語る会」をはじめとする多様な機会を通じ、お一人おひとりの声に真摯に向き合ってきました。今後もこの「対話」の姿勢を貫き、常に市民に寄り添いながら、誰もが「鹿島に住んでよかった」と心から実感できるまちづくりを推進していきます。

また、「連携」については、広域的なインフラ整備など市単独では解決できない課題に対応していくためには、国、県、近隣自治体や関係機関、そして市民の力を結集させてこそ、大きな成果が生まれると確信しています。

これまでに、県との連携による肥前鹿島駅周辺整備の推進や、近隣自治体と結束した広域幹線道路の整備促進、長崎本線の利便性向上に全力を注ぎ、事業の実現に向けた歩みを着実に進めてきました。このほか大学・高校との連携プロジェクトや民間企業との協定を通じ、まちの可能性を広げる強固な枠組みを築いてきたところです。

2期目は、この確かな礎を継承・発展させ、具体的な成果として結実させることを目指すステージと位置付け、これまで築いた連携をさらに深化させていきます。

【第八次鹿島市総合計画のスタート】

本年4月から第八次鹿島市総合計画がスタートしました。この計画を着実に実施していくことが、市民の皆さまの満足度向上につながるものと考えています。

人口減少という厳しい現実があるからこそ、地域が「つながり、支え合う」絆を一層強固にしなければなりません。特に、未来を担う子どもたちのために、教育環境の整備や子育て支援を力強く推進し、若い世代が「ふるさと鹿島」に誇りを持ち、夢を語れるまちづくりを目指していきます。皆さまと手を携え、目指すまちのすがたである「つながる笑顔のまち かしま」を築いていきたいと思えます。

この実現に向け、私が特に力を注ぐ重点施策について申し上げます。

【将来を見据えた社会インフラの整備】

はじめに、重点施策の一つ目として「将来を見据えた社会インフラの整備」について申し上げます。

持続可能なまちづくりを実現する上で、都市基盤の充実は欠かすことのできない最優先課題です。

1 広域幹線道路網の整備促進

広域幹線道路網の整備促進については、国と県において「有明海沿岸道路」

の整備が着実に進められています。その中で、福富～鹿島間においては、昨年度、鹿島側で具体的なルートが示され、現在は、用地買収が進められているところです。この道路は全線にわたり4県を跨ぐ広域交通網ですので、関係する自治体との連携が極めて重要です。本年度も、引き続きしっかりと連携し、国や県、国会議員に、その必要性と我々の熱意を強く訴えかけていきます。

また、「国道498号（鹿島武雄間）」についても、引き続き県や沿線自治体と力を合わせながら、早期整備の実現に向けて取り組んでいきます。

2 肥前鹿島駅周辺整備事業

肥前鹿島駅周辺整備事業については、令和11年度の全体整備完了に向け、昨年度から新駅舎の造成工事を進めています。いよいよ今年度からは本格的な建築工事に着手し、令和9年度内の完成に向け、着実に歩みを進めています。

本事業の推進に当たっては、県と市が強固な連携と信頼関係のもと、知恵を出し合い、一丸となって着実に歩みを進めてきました。本事業の真の目的は単なる駅舎の建設にとどまりません。完成する新駅という舞台を市民が「主役」となって利用していただき、多様な人が行き交う場を創り出すことこそが、まちの活性化につながるものと考えています。

この駅を、「スロースーリズム」と「暮らし」の玄関口と位置付け、訪れる方には鹿島の自然や文化をゆっくりと味わう「スロースーリズム」の出発点として、市民の皆さまにとっては気軽に立ち寄り、交流や新たな活動が生まれる場所として育てていきます。

また、地域の自発的な活動や新たな挑戦を後押しし、鹿島ならではの魅力

をさらに磨くことで、地域のにぎわい創出につなげていきます。

訪れる人も暮らす人も笑顔になれるまちづくりを目指し、取組を進めていきます。

3 都市機能の最適化

都市機能の最適化については、若い世代が希望を持って未来を描けるまちを次代へ引き継ぐため、取組を進めていきます。

まず、「都市計画マスタープラン」の見直しにスピード感を持って着手し、ハード・ソフト両面の基盤を整えながら、長期的な視点に立った土地利用の最適化に取り組んでいきます。

また、公共施設のマネジメントを第八次鹿島市総合計画の重点施策に位置付けています。持続可能なまちづくりを実現していくため、地域づくりの拠点であり、住民サービスの基盤でもある公共施設のあり方を皆さまとともに考え、様々な観点から検討を重ねていきます。

施設の老朽化に加え、人口減少・少子高齢化という現実と向き合い、市民の皆さまとの対話により最善の策を模索しながら、次世代へ負担を先送りすることのないよう取り組んでいきます。

【子どもたちの健やかな成長と郷土愛を育む環境づくり】

次に、重点施策の二つ目として「子どもたちの健やかな成長と郷土愛を育む環境づくり」について申し上げます。

人口減少社会への対応は、早急に取り組むべき課題であり、子育て支援をはじめとした少子化対策は、第八次鹿島市総合計画の最重要課題の一つと捉えています。出生前から子育て期まで切れ目のない支援を行うとともに、今

必要な支援を的確に取り組んでいきます。

1 子どもたちの安全と学びを支える環境整備

子どもたちの安全と学びを支える環境整備については、近年の猛暑を受け、災害時に避難所となる中学校体育館に空調設置を進め、児童生徒の活動時の安全安心は元より、体育館を利用される皆さまの熱中症リスクの軽減と避難施設としての機能強化を図ります。

また、子育て世帯への経済的支援について、近年の物価高騰は学校給食の食材調達にも大きな影響を及ぼしています。これまで本市では、ふるさと納税や国の重点支援地方交付金を活用し、食材料費高騰分への一部補助や、小学校6年生と中学校3年生を対象とした給食費無償化などを行ってきたところです。

本年度は、保護者の負担をより一層軽減するため、国県が実施する小学校給食費の無償化に加え、市独自の取組として中学校の全生徒を対象とした給食費無償化を実施します。

また、保育所等の給食費についても食材料費高騰分を支援するため、本定例会において補正予算を計上しています。

2 子どもたちの郷土愛の醸成

こうした環境づくりと並行して、私たちが次世代に引き継ぐべきは、地域が育んできた誇りや精神的豊かさです。その観点から、子どもたちの郷土愛の醸成に取り組めます。

本市には、面浮立や獅子舞など、先人が守り抜いてきた伝承芸能が市内各地に息づいています。これらの伝承芸能は単なる文化活動にとどまらず、地

域を知り、故郷への愛着を育む大切な教育の場でもあります。

しかし、多くの地域では、後継者や運営資金の確保に課題を抱えており、活動を維持するための新たな支援が急務となっています。

こうした背景を踏まえ、地域の宝である貴重な文化資源を未来へつなぐべく、本定例会において「伝承芸能活動支援事業」に係る補正予算を計上しています。

各保存団体への支援を通じ、次世代への継承体制を構築していきます。受け継がれてきた郷土の祭りの記憶は子どもたちの誇りとなり、未来の鹿島を担う力へ成長すると確信しています。

【市民の暮らしを守る経済対策と産業支援】

次に、重点施策の三つ目として「市民の暮らしを守る経済対策と産業支援」について申し上げます。

1 物価高騰対策について

物価高騰が市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼす中、本市ではこれまでも生活支援と消費喚起策の両面から取り組んできました。

3月末から配布した「かしまを元気に！まるごと応援券」は、すでにご利用いただいているところです。また、4,000円で5,000円分のお買い物ができるプレミアム付商品券事業についても、前回実績を上回る、多くのお申込みをいただいています。これらの取組は、市内消費の下支えや地域事業者の支援につながるものと考えています。

今後も、中東情勢をはじめとする社会経済情勢を注視しながら、市民と事業者に寄り添った支援に努めていきます。

2 農業支援について

持続可能な農業の実現に向けた取組について、現在、農業分野においては、担い手の減少や高齢化、資材価格の高騰といった厳しい環境が続いています。本市では、こうした難局を乗り越え、次代を担う持続可能な農業を構築することが喫緊の課題であると認識しています。特に、トレーニングファーム卒業生や新規就農者、地域で意欲ある担い手農家が安心して営農できる環境づくりが不可欠です。このため、本市では園芸団地の整備を重点的に進めています。

本年度は、常広地区におけるトマトやいちご等の施設園芸団地と飯田地区における根域制限みかん栽培団地の整備を進める計画としています。

また、農業の競争力強化に資する「スマート農業」の普及拡大もスピーディに進めていく必要があります。このため、スマート機械の導入支援について、国や県の補助事業を最大限に活用しつつ、市単独での支援も実施できるよう、本定例会において事業の拡充分に係る補正予算を計上しています。

今後も、現場のニーズを的確に把握し、本市の基幹産業である農業のさらなる振興のため、全力で取り組んでいきます。

3 有明海再生への取組

有明海再生への取組については、漁場環境の改善や二枚貝類資源の回復といった加速化対策のほか、市独自の取組として、漁業就業者支援による担い手の確保にも注力していきます。

昨シーズンは、養殖海苔の種付け作業がこれまでで最も遅い11月に入ってからスタートとなりました。このことが功を奏し、鹿島市沖での海苔生産枚数は1億6千万枚、販売金額は35億円に達しました。特に、販売金額

は、平成以降で過去最高を記録し、佐賀県全体としても4年ぶりに販売枚数、金額ともに日本一の栄冠に返り咲くという、誠に喜ばしい結果となりました。

これもひとえに、漁協や漁業者の皆さまによる懸命なご努力、そして関係機関のご支援、ご協力の賜物であると深く敬意を表します。

宝の海である有明海の再生と漁業のさらなる振興のため、関係機関と一丸となって取り組んでいきます。

まず、市長2期目の市政運営に当たり、特に力を注ぐ重点施策について述べさせていただきました。こうした施策の積み重ねが、さらなる活力あるまちづくりへとつながるものと確信しています。

【かしまファン獲得に向けた取組】

最後に、「かしまファン」獲得に向けた取組について申し上げます。

本市には豊かな自然や歴史、文化、そして私たちの暮らしを支える産業など、この地ならではの様々な魅力が息づいています。こうした誇るべき地域資源をさらに磨き上げ、市内外へ積極的に発信し、鹿島のファン層をさらに拡大していくことが、今後の地域活性化の鍵となります。

1 シティプロモーションの推進について

令和6年度に市制施行70周年を迎えた契機として、本市に対する誇りと愛着を市民に再認識していただくとともに、地域の魅力を広く発信するシティプロモーションを展開してきました。

本年度は、人や地域のつながりをたどる動画を制作し、SNS等で発信するほか、市内外の方々に様々な視点から鹿島の魅力を発信していただく「鹿

島市アンバサダー制度」を新たに創設し、これまで行政からの発信だけでは届かなかった層に対しても、効果的な情報伝達を図ります。

これらの取組で、市民の皆さまには改めて「我がまち鹿島」の良さを実感していただき、また、市外の方々には本市の存在と魅力を知っていただくきっかけを創出することで、今後も「鹿島に関わり続けたい」と思っただけの「かしまファン」づくりを推進していきます。

2 鹿島酒蔵ツーリズム・鹿島ガタリンピックについて

3月28日、29日に開催した「鹿島酒蔵ツーリズム2026」は、両日とも天候に恵まれ、市内外から多くの方にお越しいただきました。今や佐賀県を代表する春の一大イベントとして定着し、着実に「かしまファン」を拡大させています。

本年も、地域の食、人とのふれあいや交流を楽しんでいただいたとの声が多く寄せられました。日本酒を楽しむだけでなく、鹿島の暮らしや文化そのものを体感していただく、まさに私たちが目指す「スロートーリズム」の原点ともいえる取組です。

また、5月31日には、第42回鹿島ガタリンピックが開催され、国内外から約1,400人の選手をお迎えし、会場は笑顔と熱気に包まれました。本大会を通じて、本市の魅力を全国、そして世界に向けて発信することができました。

今後も、こうした本市ならではのイベントなどを大切に守り、磨き上げながら、地域の皆さまと一緒に盛り上げていきます。

3 ふるさと納税の推進について

ふるさと納税については、令和7年度の寄附額は約14億9千万円と、全国的な競争が激化する中であっても、前年度と同等の水準を維持することができました。

ふるさと納税は、本市の市政運営を支える貴重な財源であると同時に、返礼品を通じて本市の生産者や風土を知っていただく「地域への入り口」でもあります。

今後は、全国的な寄附動向の分析をもとに、新たなリピーターの獲得や、ポータルサイトにおける独自企画の展開など、より戦略的な取組を強化していきます。これからも市内事業者と一丸となって本市の魅力を広く発信し、継続的に応援していただける「かしまファン」の拡大に全力を尽くします。

鹿島に愛着を持ち、本市を支えてくださる「かしまファン」の獲得は、人口減少社会において地域活力の維持を図るために極めて重要です。

今後とも、市内外に「かしまファン」の輪を大きく広げ、その絆を深めることで、持続可能なまちづくりを推進していきます。

本市には、未来を切り拓く豊かな可能性があるかと確信しています。先人より受け継いだ伝統や絆を大切にしながら、地域の資源を磨き上げ、刻々と変化する社会情勢にも的確に対応していきます。「対話」を市政の原点に据え邁進し、市民の皆さまと手を取り合い、強固な「連携」のもとで、目指すまちのすがた「つながる笑顔のまち かしま」を創りあげていきます。

以上、6月定例会の開会に当たり、所信の一端を申し上げます。今後とも市民の皆さま並びに議員の皆さまのさらなるご理解とご協力をお願い申し

上げます。

【議案について】

それでは、提案する案件について、その概要を説明します。議案は、報告5件、補正予算1件、その他2件の合計8件です。このうちの主な議案について申し上げます。

【令和8年度補正予算案について】

まず、議案第23号 令和8年度鹿島市一般会計補正予算（第1号）について申し上げます。今回の補正は、予算の総額に1億6,811万7千円を追加し、補正後の総額を166億7,511万7千円とするものです。

令和8年度一般会計当初予算は、市長改選期に当たり、いわゆる骨格予算として編成をしていましたので、本定例会において新規事業や市単独の投資的事業などの政策的経費を加え、肉付け予算として提案するものです。

歳入については、事業の決定や追加などに伴う国・県支出金のほか、基金繰入金、コミュニティ助成事業助成金などを計上しています。

歳出のうち主なものとしては、総務費では、防犯カメラ設置等事業を、民生費では、保育所給食費等支援事業を、農林水産業費では、新規就農総合支援事業を、商工費では、観光トイレ管理事業を、教育費では、文化財保護対策事業を計上しています。

このほか、個人や企業様からご寄附をいただいておりますので、それぞれのご寄附の趣旨に従い、有効に活用させていただきます。

【その他の報告について】

最後に、報告事項について申し上げます。

報告第2号 令和7年度鹿島市一般会計繰越明許費繰越計算書、報告第3号 令和7年度鹿島市水道事業会計予算繰越計算書、報告第4号 令和7年度鹿島市下水道事業会計継続費繰越計算書及び報告第5号 令和7年度鹿島市下水道事業会計予算繰越計算書については、昨年度の予算執行段階で諸般の事情により予算の一部を本年度に繰り越して使用することとしましたので、それぞれの関係法令の規定に基づき報告するものです。

以上、提案する主な議案の概要について説明しました。その他の議案や詳細については、ご審議の際、担当部長又は課長が説明しますので、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。